

授業科目	政治学史演習
演習題目	政治学の古典と教養
担当教員	木村俊道
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本演習では、古代ギリシアから 20 世紀に至る西洋政治思想の「古典」を講読します。</li> <li>・これらの「古典」と実際に対話する作業を通じて、学問的な思考の「型」を身につけ、歴史や思想の観点から、「政治」の理解や市民としての「教養」を深めることを目指します。</li> </ul>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代に流されることなく、「政治」や「法」の問題を深く地道に考えてみたいと思った方。</li> <li>・一人で読むのは難しい「古典」に挑戦してみたい方、学問的な「基礎」や「作法」をしっかり身につけたい方など。サブゼミ希望者やオブザーバーも歓迎します。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>【テキスト】 授業の計画・内容を参照。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木村俊道『文明と教養の＜政治＞—近代デモクラシー以前の政治思想』講談社選書メチエ、2013</li> <li>・岡崎晴輝・木村俊道編『はじめて学ぶ政治学—古典・名著への誘い』ミネルヴァ書房、2008</li> </ul>
授業の計画・内容	<p>◆ 24 年度に読む「古典」の候補は以下の通りです。いずれも、これを読まずに卒業してはいけない（と思える）クラシックなテキストです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ルソー『社会契約論』岩波文庫ほか</li> <li>2) ハミルトン、ジェイ、マディソン『ザ・フェデラリスト』斎藤眞・中野勝郎訳、岩波文庫、1999</li> <li>3) バジヨット『イギリス国制論』遠山隆淑訳、岩波文庫、2023</li> <li>4) リップマン『世論』掛川トミ子訳、岩波文庫、1987</li> </ol> <p>テキストは、初回に参加者と相談のうえ決定します。前後期で各 1 冊+<math>\alpha</math>を取り上げます。</p> <p>※22 年度はマキアヴェッリ『ディスコルシ』、23 年度はトクヴィルの『アメリカのデモクラシー』を前後期で通読しました。</p> <p>◆本演習ではまた、高年次教育の集大成として、年度末にゼミ論文の執筆が求められます。ただし、サブゼミの方は、書評などのゼミ論以外の選択も可能です。</p>

	<p>◇毎回の演習では、テキストの範囲を決め、担当者の報告をもとに参加者全員で討論します（10回×2）。学期末にはゼミ論・書評の報告会を行います（2回×2）。</p>
成績評価の方法	<p>通常のゼミに対する取り組み方（報告や討論への参加、ゼミ運営への貢献等）、およびゼミ論文（もしくは書評等）により総合的に評価します。</p>